

分野		専門分野			
科目名	小児看護学概論	単位	1単位	開講時期	1年
講師名	元山 浩貴	実務経験	医療機関において医師として勤務		
講師名	平野 薫	実務経験	専任教員/医療機関において看護師として勤務		
授業概要					
<p>小児期は人間の一生の中で最も成長発達著しい時期である。そして子どもの心身の成長発達は環境によって影響を受けるため、子どもを取り巻く環境を視野に入れ、対象を理解する必要がある。子どもを発達していく存在としてとらえ、子どもが社会の中で健やかに成長・発達を遂げる権利や保健医療福祉を理解し、子どもと家族の健康な生活への支援のための基礎的知識を学ぶ。変化する社会の中で子どもをめぐる問題から看護の役割を学ぶ。成長・発達の知識と発達段階に合わせた生活支援の方法を学ぶ。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の理念と目的を説明できる。 2. 小児看護における倫理と子どもの権利について説明できる。 3. 小児保健統計を踏まえ、子どもを保護する法律や保健対策を説明できる。 4. 小児期の特徴と各期の成長・発達について説明できる。 5. 小児各期の子どもと家族の日常生活への援助が説明できる。 6. 小児各期に起こりやすい健康問題と援助について説明できる。 					
DPとの関連					
<p>関連が深いもの◎、関連するもの○</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 ◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 ○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 ◎ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 ○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 					
授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】					
時間	授業内容	方法	講師		
1	1. 小児看護の理念・特徴・目的 2. 子ども親・小児親の変遷 3. 小児看護の課題	講義 ポストテスト	平野 薫		
2	1. 小児看護の倫理 1) 子どもの人権 2) 児童憲章 3) 児童の権利に関する条約 4) インフォームド・アセント 5) アドボカシー	講義 ポストテスト	平野 薫		
3	1. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 子どもと家族の諸統計(出生率、乳児死亡、子どもの死亡、子どもの疾病・異常罹患率) 2) 子どもにとっての家族とは 3) 小児医療の現状 4) 子どもを保護する法律と保健対策	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
4	(1) 児童福祉、虐待防止 (2) 母子保健 (3) 医療費の支援 (4) 予防接種 (5) 学校保健 (6) 食育 (7) 特別支援教育 (8) 臓器移植	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
5	子どもの成長と発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長の評価 5) 発達の評価	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
6	小児各期の成長・発達	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
7	1) 形態的成長 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
8	小児の遊びと発達(運動・学習と遊び)	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
9	小児の栄養と食生活の特徴 1) 栄養の意義 2) 小児各期の食生活の特徴(授乳、離乳を含む) 3) 食生活の問題と食育	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
10	事故防止と安全教育・安全対策(感染予防)	講義 ポストテスト	元山 浩貴		
11	新生児期・乳児期の特徴と支援 1) 新生児期・乳児期の子どもと家族の日常生活の支援 2) 乳児期に起こりやすい健康問題と支援	GW/講義	平野 薫		
12	幼児期の特徴と支援 1) 子どもと家族の日常生活への支援 2) 幼児期に起こりやすい健康問題と支援	GW/講義	平野 薫		
13	学童期の特徴と支援 1) 子どもと家族の日常生活への支援 2) 学童期に起こりやすい健康問題と支援	GW/講義	平野 薫		
14	思春期の特徴と支援 1) 子どもと家族の日常生活への支援 2) 思春期に起こりやすい健康問題と支援	GW/講義	平野 薫		
15	各発達段階における健康問題と支援 発表・意見交換	GW/講義	平野 薫		
	終了試験				
受講上の注意					
<p>准看護師課程で履修した小児に関する学習を活用できるように復習しておきましょう。 テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようなポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。わからない語句や内容について調べておきましょう。</p>					
評価方法					
<p>ポストテスト(20点)、課題(10点)、筆記試験(70点)</p>					
使用するテキスト					
<p>奈良岡美保他著 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院</p>					
参考文献					